

Call to Action!

人を動かす
コミュニケーション

Vol.25 言い訳

やっと鎮まったと思ったコロナウイルスでしたが、今度は「第2波」が発生し、さらに長引く様子を見せています。そしてこの新型コロナウイルスの影響によりカンタス航空が2020年10月末まで日本とオーストラリア間のフライトを運休することを発表しました。恐らく第2波による航空業界へのインパクトは多大なもので、経営を立て直すにはしばらく時間がかかるでしょう。

航空会社の立て直しと言えれば2010年に戦後最大の負債額を抱えて経営破綻した日本航空(JAL)が頭によぎるのではないのでしょうか? 今月の Call to Action! では誰もが不可能と考えたJALの立て直しを見事に成功させた稲盛和夫氏の「考え方」と「生き方」を皆さんと一緒に見ていきたいと思ひます。

稲盛さんは実際に多くの人から「あんな巨大な組織の立て直しは絶対に無理だ」「晩節を汚すことになる」と言われていたそうです。しかし、倒産したJALを救うことには以下の3つの大義があり、世のため人のために尽くすことが人間として大切だという信念から、勝算があるわけではないが火中の栗を拾ったそうです。

- ①残された3万2000人の従業員の雇用を守る。
- ②日本経済全体への悪影響を食い止めることができる。
- ③ANAとの正しい競争環境を維持して、国民の利便性を図る。

また稲盛さんと京セラから一緒に移動し、再建に乗り出した大田嘉仁さんは倒産当時のJALの状況をこう振り返っています。

「どの部署の人も言い訳しかりません。自分は一所懸命やってきたし、悪くないと。そしてあからさまに他の部署を批判するのが当時のJALという会社の特徴でした」

このような状況で、稲盛さんが行った改革の第一歩は社員の意識を変えることでした。そして「君は誰のために仕事をしているんだ?」という質問で社員の意識を変えていったそうです。



(引用:ワールドビジネスサテライト(WBS))

これらの考え方はすべて稲盛さんの「生き方」から来ているように感じます。そこで稲盛さん著書の「生き方」から彼の考え方が理解できる箇所を以下に抜粋します。

『混迷の時代だからこそ「生き方」を問い直す、』

私たちはいま、混迷を極め、先行きの見えない「不安な時代」を生きています。豊かなはずなのに心は満たされず、衣食足りているのに礼節に乏しく、自由なはずなのにどこかで閉塞感がある。やる気さえあれば、どんなものでも手に入り何でもできるのに、無気力で閉塞感がある。

『人生の真理は懸命に働くことで体得できる、』

人格を練り、魂を磨くには具体的にどうすればいいでしょうか。山にこもったり、滝に打たれたりなどの何か特別なことが必要なのでしょうか。そんなことはありません。むしろ、この俗なる世界で日々懸命に働くことが何よりも大事なのです。(中略) 精進とは、一生懸命に働くこと、目の前の仕事に脇目もふらずに打ち込むことです。私は、それが私たちの心を高め、人格を錬磨するためにもっとも大事で、一番有効な方法であると考えています。

『「考え方」が変われば人生は180度変わる 人生・仕事の結果 = 考え方 × 熱意 × 能力、』

つまり、人生や仕事の成果は、これらの3つの要素の「掛け算」によって得られるものであり、けっして「足し算」ではないのです。(中略) 掛け算ですから、能力があっても熱意に乏しければ、いい結果は出ません。逆に能力がなくても、そのことを自覚して、人生や仕事に燃えられるような情熱であらば、先天的な能力に恵まれた人よりもはるかにいい結果が得られます。そして最初の「考え方」。3つの要素のなかではもっとも大事なもので、この考え方次第で人生は決まってしまうといっても過言ではありません。

いかがでしょうか? 先行きが見えない今こそ、



考え方を換え、自分ができる仕事に全力で打ち込むことで何らかの結果が見えてくるのではないのでしょうか? そして大事なことは「今起きている状況に言い訳をしないこと」だと思います。同じ状況で同じ仕事をしていても正しい方向に意識が向かっている人は成長します。しかし間違った方向に意識が向かっていると学びがなく無駄な時間を費やしてしまいます。「言い訳から入らず、真面目で一生懸命、そして明るい人」が会社の将来を託せる人物像と言われています。そのような人間になれるように一緒に精進していきましょう!

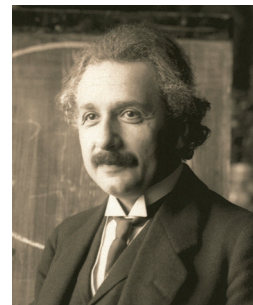
では、また来月!

今月の格言:

"Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow. The important thing is not to stop questioning."

Albert Einstein

(昨日から学び、今日を生き、明日に希望を持つ。
重要な事は質問し続けることだ。)



生き方

(稲盛和夫)

稲盛和夫がJAL再建に成功した最大の理由
https://www.chichi.co.jp/web/20180705_inamori-1/



[著書サイト]

オルタナティブ・ブログ

(岡涼介と Shall we dance?)
<http://blogs.itmedia.co.jp/ryosan/>



一寸のムシにも五分のタマシイ

- 文芸社

<https://www.bungeisha.co.jp/bookinfo/detail>



著者プロフィール

岡 涼介
(オカリョウスケ)

Pegasystems シニア・システム・アーキテクト
(Professional service/Consultant)

1999年にワーキングホリデーで来豪。University of Western Sydneyを卒業後、日系と外資系の両方でITエンジニアとして約8年シドニーで働く。その後、日本に帰国し日本IBMなどの外資系でさらなる経験を積む傍ら、社会貢献や投資などのプロジェクトにも意欲的に取り組む。再度シドニーに来豪し、現在はアプリケーション構築コンサルタント・開発として主に政府や金融関係のプロジェクトに携わる。